

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	府中市是政 1 - 1 0 - 1 4
園名	府中市立日吉保育所

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「なんだろう？」から始まる身近な自然への探求 ～しいたけの原木栽培を通して～

<テーマの設定理由>

- ・昨年度野菜を育てる経験を通して興味関心が深まり、食育への期待が大きくなっていた。
- ・今年度から新設園のため畑の整備がまだされていないこともあり、土壌が不必要なものを題材とした。
- ・「何だろう」、「どうして？」と疑問を持ち、自分で触れたり考えたりする経験を大切にしたいと考えた。

2. 活動スケジュール

【4月24日～28日】

しいたけの原木を設置し観察開始。「これは何だろう」と想像する中、芽を発見しキノコだと気づく。数や大きさ、においなどを観察する。

【4月30日】

しいたけ 6 個収穫。観察用として触る・嗅ぐ・切って断面を見る・干す・絵に描く。

芽が出ない原木に目を向け、なぜ出てこないか？と疑問を持ち、どうしたらよいか考え試みる。

【5月7日～29日】

原木を水に浸す・紙に巻く・場所を移す・霧吹きをする・原木を半分に切る・刺激を与えるなど、環境の工夫をする。

DVD を見たり、図鑑を調べながら継続して観察する。

【6月2日】

しいたけ 5 個収穫。バター醤油味に調理してもらい食べる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・しいたけの原木 4 本を用意。日々の変化を継続して観察できるよう身近な場所に設置した。

霧吹き・ペットボトル・タライなどを準備し、原木を水に浸したり湿度のある洗濯室へ移動したり、のこぎりで切って刺激を与えたり、バスタオルや紙に巻くなど、しいたけの成長に合わせて環境を工夫した。

また、しいたけをより詳しく観察できるよう、虫眼鏡（顕微鏡）や図鑑、DVD を用意した。

- ・収穫したしいたけについては、触る、においを嗅ぐ、切って断面を見る、干す、絵に描くなど様々な方法で観察できるようにした。

- ・子どもたちの気づきや発見を写真や言葉で掲示し、友だちと一緒にこれまでの変化を振り返ったり、新たな疑問を持ったりできる環境をつくった。

4. 探究活動の実践

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

- ・初めて原木を見た子どもたちは、「これは何だろう」、「むしがでてくるのかな?」、「りんごの木かな?」、「さくらんぼじゃない?」など何が出てくるのかを自由に想像する。芽が出ると「きのこだ!」、「大きくなって!」と変化に気づき、数を数えたり、大きさを比べたりにおいを嗅いだりする姿がみられた。
- ・初めての収穫時は、観察用として触る・嗅ぐ・切る・干す・描くなど様々な方法でしいたけの姿を楽しんだ。
- ・芽が出てこない時期は「なぜ?」と疑問を持ち、「のどが乾いてる?」「寒い?」「温かくする?」と色々な意見が出た。子どもたちと一緒に考えながら、水に浸す・場所を変える・霧吹きをする・切って刺激を与えるなど環境を変えて様子を見てきた。また、調べたことを実際のしいたけと比べたり、知識を得たり友だちと気づきを伝えあう姿がみられた。
- ・活動の様子やしいたけの成長を写真や子どもたちの言葉や深まりを掲示、配信し、保護者や職員全体にも伝えた。家庭でも活動についての話題のひとつとなり、発見や経験を保護者と共有することにつながった。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ・今回の活動を通して、子どもたちの「何だろう?」という素朴な疑問を大切にし、すぐ答えを伝えるのではなく、実際に見たり、触れたり、比べたり、調べたり、試したりする経験を保証することの大切さを感じた。
- ・思うように育たないことも「なぜだろう?」と考えるきっかけとなった。保育者も子どもたちと一緒に試行錯誤しながら環境を整えることで、自然の変化をとともに楽しみ、探求を深めることができたように思う。今後も、子どもたちの小さな気づきや疑問を、活動の出発点として受け止め、「見つける、考える、試す、確かめる」経験を大切にしながら、子ども自身が探求を深めていける環境をつくっていきたい。